

# てくテックすさき 令和6年度年間活動報告

作成者:特定非営利活動法人みんなのコード 西森

## 1. 基本情報

### 報告期間

令和6年4月1日～令和7年3月31日

### 開館日数

191日

### 事業詳細

#### 令和6年度運営体制

##### 令和6年4月時点

館長1名

コーディネーター2名(うち1名が須崎市地域おこし協力隊員)

アルバイト7名

ボランティア2名

##### 令和7年3月時点

館長1名

コーディネーター1名(須崎市地域おこし協力隊員)

アルバイト8名

ボランティア2名

## 2. 利用状況

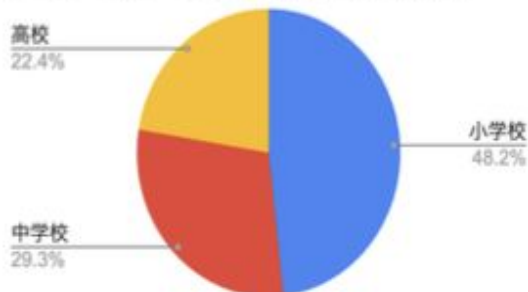
	本年度数値	前年度数値	前年比	伸び率	
開館からの総来館者数	6996名	3853名	181.57%	81.57%	
年間利用者数	3143名	2214名	141.96%	41.96%	
1日あたりの平均来館者数	16.5名	11.5名	143.45%	43.45%	
実人数※施設を利用した個人の数	163名	219名	74.43%	-25.57%	
利用登録者数	152名	93名	163.44%	63.44%	
		本年度数値	前年度数値	前年比	伸び率
学校種別利用者数	小学校	1924名	1067名	180.32%	80.32%
	中学校	610名	649名	93.99%	-6.01%
	高校	585名	496名	117.94%	17.94%
		本年度数値	前年度数値	前年比	伸び率
性別	男	1229名	1177名	104.42%	4.42%
	女	1610名	1036名	155.41%	55.41%
		本年度数値	前年度数値	前年比	伸び率
学校別利用者数	多ノ郷小	1527名	550名	277.64%	177.64%
	須崎小	62名	162名	38.27%	-61.73%
	吾桑小	103名	27名	381.48%	281.48%
	安和小	4名	17名	23.53%	-76.47%
	上分小	4名	63名	6.35%	-93.65%
	浦ノ内小	20名	24名	83.33%	-16.67%
	新荘小	0名	19名	0.00%	-100.00%
	南小	0名	16名	0.00%	-100.00%

	朝ヶ丘中	491名	276名	177.90%	77.90%
	浦ノ内中	8名	52名	15.38%	-84.62%
	上分中	10名	18名	55.56%	-44.44%
	須崎中	10名	120名	8.33%	-91.67%
	南中	0名	2名	0.00%	-100.00%
	総合高校	359名	366名	98.09%	-1.91%
	その他	525名	229名	229.26%	129.26%
		本年度数値	前年度数値	前年比	伸び率
曜日別1日あたり平均利用者数	水曜日	16.2名	8.5名	189.62%	89.62%
	木曜日	15.5名	10.0名	153.90%	53.90%
	金曜日	15.4名	10.8名	142.82%	42.82%
	土曜日	17.1名	12.0名	143.35%	43.35%

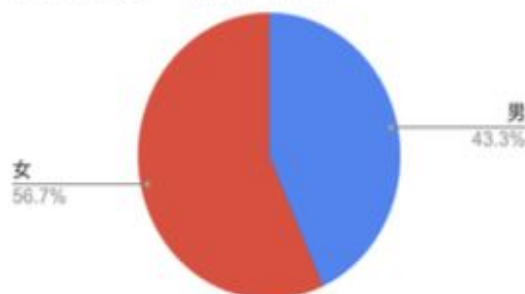
2024年度 学校種別利用者割合



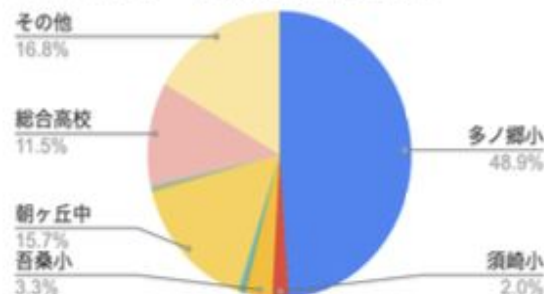
2023年度 学校種別利用者割合



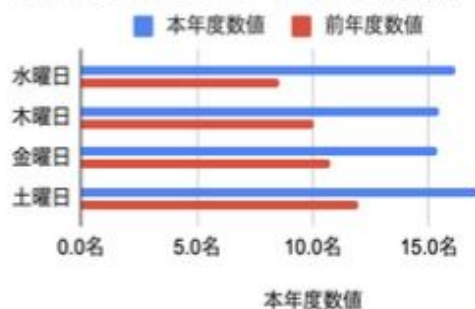
2024年度 性別の割合



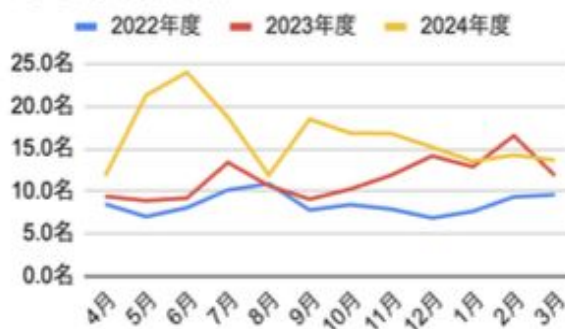
2024年度 学校別利用者割合



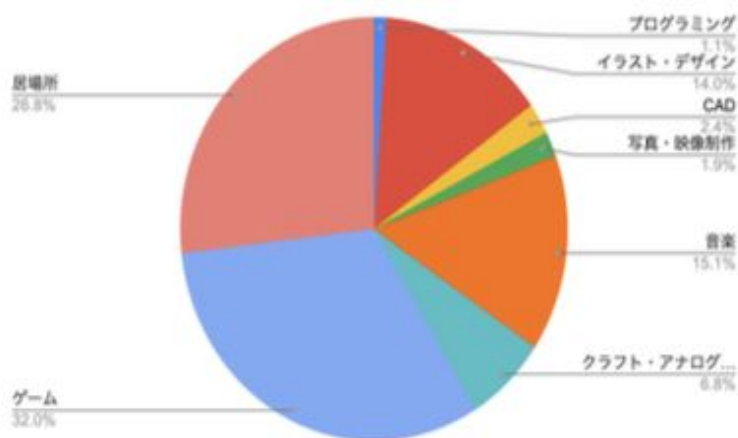
### 曜日別1日あたり平均利用者数



### 平均来館者数



### 2024年度 施設利用目的・取り組み内容



### 利用目的

取り組み内容の目安

【プログラミング】scratch、Hack for play、Unityなど

【イラスト・デザイン】アイビス、クリスタ、Canvaなど

【CAD】TinkerCad、Zbrush、blender、VroidStudioなど

【写真・映像制作】カメラ、Photoshop、premium pro、MMDなど

【音楽】楽器、GarageBandなど

【クラフト・アナログものづくり】レーザーカッター、アイロンビーズなど

【ゲーム】ブラウザゲーム、スマホゲーム、VRなど

【居場所】宿題、おしゃべり、ボードゲームなど

### 利用状況についての成果と課題

①本年度は年間の平均来館者数が目標としていた15人を突破した。

小学生に関しては、特に5月6月は利用対象年齢になり興味を持った児童が、放課後の時間を活用して来館することが多かった。しかし夏休みに入ると例年通りに来館者が減少し、夏休み後も改め

て来館する児童は少数であったことから、夏休み中にも来館したくなる工夫の必要性を感じ、イベントの実施を行っていく。

中学生・高校生に関してはリピート率が高く、長期休み中でも施設を訪れて機器を活用する様子が見られた。しかしながら、小学生の増加に伴い騒がしいなどの理由で、居心地が悪いと感じている利用者も多く、幅広い年代を受け入れる施設ならではの課題が残る。今後も学校教育課と連携し、多くの子供たちが安心して過ごせる施設作りが必要である。

②本年度から利用登録のシステム改修を行った。以前は登録用紙を提出する必要があったが、googleフォームを利用することで登録率を高め、LINE登録を促すことで保護者との繋がりをより強固にすることができた。

③子供たちの取り組みとしては、マイクラフトを用いたデジタルものづくりや、3Dプリンターでの作品作り、iPadを用いたイラストが根強く人気がある。マイクラフトではサバイバルモードで遊んでいた子供たちが、自らテーマを決めて建築対決をするなど発展した取り組みを行っている。また、以前から施設で活動していた中高生バンドに憧れ、本年度からは小学生がバンドを組み地域イベントでの演奏を行なった。現在も熱心に練習を続けており、同級生たちにも刺激を与えていた。

④本年度は初めて女性利用者の割合が男性利用者の割合を超え、特に夏休み以降は女性利用者の割合が大きくなった。集団で行動していることが多く、一人が施設に興味を持つと友人たちも誘って来館することが要因に挙げられる。施設の特徴ではあるものの、男性利用者がやや気圧されており、来館しづらくなっていると予想される。

⑤実人数および特定の学校からの利用者が昨対比大きく減少したことについては、本年度から集計方法を変更したことが起因している。昨年度は学校の授業受け入れで来館した人数を集計していたが、運営での利用者数を把握するため、本年度は開館中に来館した人数で集計を行なっている。施設から徒歩圏内にはない小中学校の児童・生徒が施設に来たくても来られない現場は課題として学校教育課と共有しており、今後改善策を検討していく。

### 3. 運営

#### 授業受け入れ

11月13日、14日 多ノ郷小学校

11月15日 吾桑小学校

11月20日 浦ノ内中学校

11月22日 浦ノ内小学校

11月27日 須崎小学校

12月13日 朝ヶ丘中学校

12月17日 安和小学校

1月23日 南小学校

2月27日 新荘小学校

## 授業受け入れ実施報告



### 視察

- ・さいたま市前教育長 細田様(5月1日)
- ・須崎総合高校レゴ工場展示の取材(5月1日)
- ・フリーペーパー「ミリカ」(高知新聞)(5月18日)
- ・「よどがわベース」(大阪府淀川区)(6月5日)
- ・大阪府門真市(生涯学習課ほか)(7月12日)
- ・高知大学 福谷ゼミ(9月19日)
- ・発達障害者支援センター(10月22日)
- ・樞工房 かやの森(11月24日)
- ・b-lab 田中様(12月7日)

- ・須崎市民 2名(1月22日)
- ・須崎市民 1名(1月23日)
- ・須崎市地域おこし協力隊員(1月23日)
- ・明德義塾中学・高等学校(1月29日)
- ・すさきスタートアップコンテスト参加者(1月30日)
- ・東京大学教授、ゼミ生(2月13日)
- ・高知県庁 嶋崎様(3月19日)
- ・須崎市教育政策プロデューサー 細田様(3月26日)

## その他

- ・新年度てくテックすさき案内チラシ配布(4月中旬)
- ・メンター向けセーフガーディング研修実施(4月中旬)
- ・Uプロジェクト施設体験会(4月5日)
- ・高知大学附属小学校への視察(4月17日)
- ・須崎総合高校生徒製作のレゴ工場展示開始(4月24日)
- ・フィンランド人メンターのワーキングホリデー受け入れ期間終了(5月18日)
- ・四万十町立影野小学校の授業利用(7月~10月)
- ・マイクラカップ出場チーム活動
- ・全メンター対象:メンター面談(9月~)
- ・子育て支援員研修受講(9月14日)
- ・支援センター合同防災訓練(9月20日)
- ・b-lab視察(9月26日)
- ・社会的養育地域支援ネットワーク設立記念フォーラム参加(9月27日)
- ・メンター研修会(10月12日)
- ・保護者面談(11月6日、14日、20日)
- ・FM高知出演(11月6日、13日)
- ・発達支援センター研修受講(12月11日)
- ・LFA研修参加(12月18日)
- ・支援センター・後期打ち合わせ(12月26日)
- ・しゃちネット研修(1月9日)
- ・みんなのコード社員研修(1月16日、17日)
- ・Kids Code Club研修(1月22日)
- ・発達支援センター研修(1月29日)
- ・後期メンター面談(1月~2月)
- ・放課後NPOアフタースクール勉強会(2月5日)
- ・須崎総合高校・学習成果発表会(2月7日)
- ・子育て支援員専門研修・放課後児童コース(2月11日)
- ・須崎総合高校 学校運営協議会(2月21日)

- ・出張講義in明德義塾中・高等学校(3月11日)
- ・子育て支援研修(3月2日)
- ・東京出張(武田 3月12日~14日)
  - ・テクリエさぎのみや
  - ・東京農大稲花小アフタースクール
  - ・ラーニングラボすみだ
- ・避難訓練(3月19日)
- ・メンター研修(3月19日)
- ・須崎市長訪問(3月21日)

#### 4. 企画、イベント

##### 定期開催

- ・ゆるテック音楽コース:音楽講師を招いてゆるく音楽を楽しむ企画
- ・Englishフィーカ会:フィンランド人メンターと会話を楽しむ会(5月まで)
- ・イラストデー:イラストが得意なメンターと楽しく絵を描く企画
- ・ジョーの哲学カフェ:スタッフと身近な疑問を話し合う会(6月まで)
- ・てくテック利用者会議:利用者がてくテックのルールや欲しいものなどを話し合う会
- ・キッズデイ:小学1年生~9歳の利用対象外の子どもが来館できる日

##### 単発開催

##### 4月

- ・トークイベント
  - フィンランドの学校における特別ニーズ教育および日本の現状(4月6日)
- ・ストレッチを教えてもらおう!(4月13日)
- ・ガールズプログラミングデイ(4月26日)

##### 5月

- ・GWオープンデー(5月3日・4日)
  - ライブペイント&イラストワークショップ(5月3日)
  - 生成AIにふれてみよう!(5月4)
- ・トークイベント:カネリがみた日本の教育現場(5月3日)
- ・ガールズプログラミングデイ(5月11日)
- ・エクストラプログラミングデイ(5月17日)
- ・カネリお別れ会(5月18日)
- ・梶原町「森林フェスティバル」バンド「RISE」が出演(5月26日)



## 6月

- ・新メンター歓迎会(6月19日、22日)

## 7月

- ・石鹼作りワークショップ(7月11日・18日)
- ・「プログラミングでバスケ対決！目指せ得点王！」(7月26日)

## 8月

- ・第3回 てくテックロボコン(8月21日)
- ・アーニャとはじめてのプログラミング(8月24日)
- ・キッズウィーク(8月21日～24日)
- ・真夏の「狩歌」頂上決戦(8月17日)

## 11月

- ・Minecraftカップ地区大会 出場(11月3日)奨励賞
- ・わくわくサンデー(11月17日)  
バンド「RISE」、小学生バンド「夜桜」の演奏
- ・利用者作品展「いもけんぴ食べながら考えました」(11月24日)

## 12月

- ・出張てくテックin市民食堂(12月8日)
- ・出張てくテックin雲の上の図書館(12月15日)

## 1月

- ・お箸刻印ワークショップ(1月23日)

## 2月

- ・出張てくテックin須崎市図書館(2月9日)
- ・みんなのクリエイティブハブ 利用者交流会(2月22日)
- ・作曲ワークショップ(2月27日)

## 3月

- ・オリジナルのゴムてっぼうを作ろう(3月9日)
- ・作曲ワークショップ(3月15日)
- ・キッズデー(3月22日)
- ・ドローン&レゴワークショップ(3月22日)
- ・てくテック3周年記念イベント(3月22、23日)

## 日本財団支援金活用イベント

### ・親子で体験イベント

- 「極上バナナスムージーを作ろう!(ヨガレッスン体験付き)」(7月27日)
- ・フランス人アーティストと土佐和紙で版画アートを作ろう!(9月7日)
- ・世界のボードゲームで遊ぼう!(9月21日)
- ・世界に一つのオリジナルカリンパを作ろう!(9月28日)
- ・ポケカアニキに聞く! デッキ構築講座(10月26日)
- ・未来を創造する映像入門~撮影・編集~(11月16日、23日)
- ・着色体験! フィギュア&ネイル(12月28日)
- ・榎の木を使ってオリジナル「升」を作ろう!(1月26日)
- ・ZOOM開催 トークイベント(2月1日、8日)
- ・メタバースイベント(3月26日~29日)

## 企画、イベントの成果と課題

本年度は日本財団支援金を活用し、地域の大人を講師として迎えイベントを開催した。普段の運営では関わることがない大人たちと交流することで、自身の興味の幅を広げたり、スキルを磨く良い機会となった。一方、小学生を中心としたイベントのため中高生の参加は少なかった。高度なことを学びたいと意欲がある子供も一定数いるため、来年度はより多くのニーズを満たすイベントを企画していく必要がある。

5月に行われたオープンデーは、須崎総合高校の生徒が作成した卒業制作がテレビや新聞に取り上げられたことにより、2日間で166人の来場があった。未就学児~90歳までの幅広い年齢層の方に施設を知ってもらう良い機会となった。

## キッズデーについての報告

施設の利用対象者は10歳から18歳だが、月に1回小学校1年生から9歳までの児童が利用できるキッズデーを開催している。普段の利用者から「小さい子がいるとうるさい」という意見もあり、トラブル回避のため現在は土曜日の10時から12時の開館時間外に実施している。

利用できる機材についてもデジタルイラスト、レゴを用いたプログラミング体験、3Dペンなど安全に利用できるものを用い、エリアもテーブルの低い場所を利用するなど安全に考慮している。高学年の利用者と異なりスタッフが目を離せないため受け入れ可能人数に限りがあるものの、大きなトラブルもなく体験を楽しんでいる様子が見られた。

## 5. 総括

### 今年度の成果

- ①平均来館者が15人を超え、利用者数が大幅に増加した。学校の授業受け入れや、地域イベントへの参加によって施設の認知度の高まりを見せている。
- ②大学生メンターがお手本となる作品作りの姿勢を見せることで、長く施設を利用している子供たちが新しい取り組みをはじめることが増えた。それにより周囲が影響を受け、ものづくりに対して前向きに取り組む様子が増えたのも成果と言える。
- ③地域の図書館や市民食堂への出張イベントも昨年から引き続き行っており、認知度も次第に高まっている。普段利用できない低学年も参加できるイベントであり、保護者からも期待を寄せられている。
- ④昨年からの新体制での運営では、人手不足で取り組めていなかった研修への参加やメンター研修の設計ができるようになった。秋から2人体制になったものの、4月からコーディネーターを1名採用し安全な施設運営のための設計を今後も行なっていく。

#### 課題と次年度に向けて

- ①昨年から引き続き、施設徒歩圏外の市内在住の子どもの定着率は低い。保護者の送迎がある土曜日を中心に少しずつ利用者は増えているものの、今後も課題として残っている。
- ②小学生の増加に伴い、中高生が施設を利用しづらくなっている様子が伺える。双方にとって居心地の良い居場所作りのため、ゾーニングや利用時間を検討していく必要がある。
- ③ものづくり活動は少しずつ増加しているものの、取り組み内容によってはハードルを感じている利用者が多い。今後は導入部分のハードルを下げ「やってみたい」と思わせる工夫を行っていく。
- ④大学生メンターが中心となっているため、長期的な人材の確保が難しい。4月から6月までは利用者が増加する時期であるものの、3月末で3人が退職となるため一人一人の負担が大きくなる状況が予測されている。今後もSNSや学校掲示板にて募集を行いつつ、須崎市内の社会人がボランティアやメンターとして参加する体制を整えていきたい。

## 6. 活動写真





